

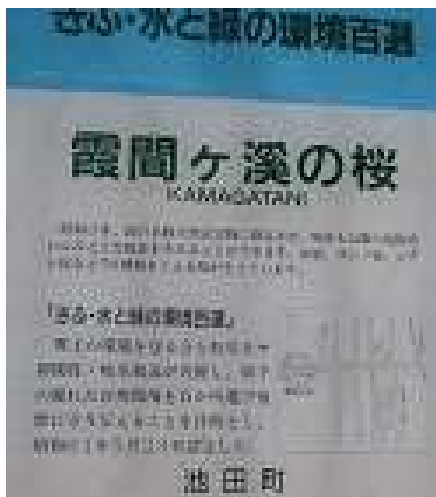
池田山の準備に行きました

道中は桜並木が8分咲きであちこち綺麗。霞間ヶ溪（かまがたに）公園は、芝サクラがきれいに咲きだして、紫いろの菜の花など咲き誇りとても綺麗でした。ここから登ります。山は芽吹きはじめ、ヤマザクラ・タムシバ・シキミ・クロモジなど早春の花々が咲き誇っています。眺望がすばらしく、とても気持ちいいトレッキングになります。山頂に少しの雪がありましたが、無くなると思います。みなさまのご参加をお待ちしています

◆下見状況

※歴史

<p>名勝・天然記念物</p> <p>霞間ヶ溪は、鎌(釜)ヶ谷とも書かれる谷川で、昔から近隣の村々(藤代・山新・上田畑・下田畑・六之井・下東野)の入会山として利用されてきました。燃料の芝や薪、飼料、肥料用の草木を得たりする、人々の生活に欠かせない場所でした。</p> <p>しかしこの谷は、土砂崩れなどの災害をたびたび引きおこす谷でもありました。特に慶安3(1650)年の大洪水では、周辺の村々は大きな被害を受けています。</p> <p>草木を取りすぎると地盤がゆるんで災害につながるため、人々はたびたび鎌留め(草木の伐採を禁じること)を行いました。結果、雑木と共にヤマザクラなどが生い茂るようになったといえます。同時に、堤防を築きあげ、護岸のために桜を植えたりもしました。</p>	<p>霞間ヶ溪(サクラ)</p> <p>鎌留めや桜の植樹という災害との闘いが、桜の名所をはぐくんできました。やがて、桜開花時に当地を見ると、山に桜色の霞がかかったように見えるところから「霞間ヶ溪」と呼ばれるようになったといえます。当地には、幕末の文人江馬細香や明治の県令小崎利準をはじめ、多くの人々が訪れるようになりました。</p> <p>昭和3年、山桜を主として天然変種を含む桜の植生地として天然記念物の、景観が優れているとして名勝の、国のふたつの文化財指定を受けました。</p> <p>桜は、ヤマザクラを主に、ヒガンザクラ、オオヤマザクラ、ソメイヨシノ、シダレザクラなどがあります。モミジなど紅葉樹も多く、紅葉の季節にも私たちの目を楽しませてくれます。</p>
--	---



※山麓（登山口）の霞間ヶ溪公園 お花がいっぱい 眺望もいい素敵な所

芝桜・紫色の菜の花など咲穂森綺麗です



歴史；焼石神社

池田山山頂

↑ 古くから雨乞いの神として山麓の農民に信仰されている。 創建：不詳